

製品安全データシート

BENZYL ACETATE (酢酸ベンジル)

作成 : 2006/2/18  
改訂 : 2022/11/12

● 項目1 化学品及び会社情報

化学品の名称	酢酸ベンジル
会社名	Eternis Fine Chemicals UK Limited
住所	Macclesfield Road, Leek, Staffordshire, ST13 8LD, United Kingdom
電話番号	+44 (0) 1538 392180
メールアドレス	<a href="mailto:sdsadvice@eternis.co.uk">mailto:sdsadvice@eternis.co.uk</a>
緊急連絡先番号	+44 (0) 1273 289454
販売代理店	サンケミカル株式会社
住所	東京都中央区日本橋小伝馬町2番4号 三報ビルディング
電話番号	03-3661-6681
FAX	03-3661-7055
メールアドレス	yano@sun-chemical.co.jp
HP	<a href="http://www.sun-chemical.co.jp/">http://www.sun-chemical.co.jp/</a>

推奨用途及び使用上の注意

香料原料並びに化学合成中間体

★ 項目2 危険有害性の要約

GHSの分類

物理化学的危険性: 分類されていない

健康に対する有害性: 分類されていない

環境に対する有害性: 水生環境有害性 長期(慢性)区分3 H412

分類	内容
区分1~4	数字が小さい方が危険・有害性が高い。1(危険)>4(比較的安全)
区分に該当しない	数字で表示される区分より安全性が高い。
分類できない	分類に有効なデータが無く、有害なのか安全なのか、分からない。
分類対象外	この項目には無関係な製品。例えば、固体の製品では「自然発火性液体」の項目で、分類対象外になる。

● GHSのラベル要素

● 絵表示又はシンボル 無し

● 注意喚起語 無し

● 危険有害性情報

H412 水性生物に長期にわたり毒性がある。  
P501 容器と残渣を法令に従い処分すること。

● 注意書き

【安全対策】

すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
使用前に取扱説明書を入手すること。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
炎及び高温のものから遠ざけること。  
保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。  
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。  
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
取扱い後はよく手を洗うこと。  
環境への放出を避けること。

**【応急措置】**

眼に入った場合： 水で10分以上継続して洗うこと。  
 皮膚に付着した場合： 即座にシャワーで洗い、汚染された衣類を脱ぐこと。  
 吸入した場合： 被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、休息させる。  
 飲み込んだ場合： 水で口を漱ぎ、少量の飲み水を与える。  
 意識が無い時は何も与えない。  
 無理に吐かせず、出来るだけ早く医師の診断を受ける。

**【保管】**

酸化剤と共存させない。  
 容器を密閉して換気の良い涼しい所で保管すること。  
 容器は直射日光や火気を避けること。施錠して保管すること。

**【廃棄】**

可能ならばリサイクルが望ましいが、それが出来ないときは、臭気があるので焼却  
 処理が望ましい。  
 地方自治体の基準に従い、許可を受けた産業廃棄物業者に委託して、アフター  
 パーナー及びスクラパーを備えた焼却炉の火室へ噴霧し、焼却する。

**項目3 組成及び成分情報**

化学物質・混合物の区別

化学名又は一般名

慣用名・別名

化学物質を特定できる一般的な番号

CAS番号

EC番号

REACH登録

成分及び濃度又は濃度範囲(含有率)

官報公示整理番号(化審法、安衛法)

GHS分類に寄与する成分

単一製品

酢酸ベンジル (Benzyl acetate)

フェニルメチルアセタート (Phenylmethyl acetate)

140-11-4

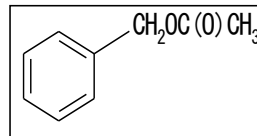
205-399-7

01-2119638272-42-0000

99%

(3)-1020

GPL規則(EC 1272/2008)に抵触するレベルの不純物は含まれてない。



不純物	CAS	分類	割合
ベンジルアル コール	100-51-6	急性毒性4	<0.1%
無水酢酸	64-19-7		<0.05%
水	7732-18-5		<0.1%

**▲ 項目4 応急処置**

一般情報

医療従事者に本紙を提出すること。直ぐに医師の診断を受けること。

吸入した場合

汚染された場所から避難すること。  
 被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、身体を温めて楽な姿勢で休息させる。  
 呼吸をし易い状態を維持すること。  
 襟、ネクタイ、ベルト等は緩めること。  
 呼吸困難の際、医療従事者の酸素呼吸機器で補助すること。  
 意識不明の被災者を横向きにおいて回復体位にすること。

皮膚に付着した場合

即座にシャワーで洗い、汚染された衣類を脱ぐこと。

眼に入った場合

水で10分以上継続して洗うこと。

飲み込んだ場合

水で口の中を十分にゆすぐこと。義歯が有れば外すこと。  
 飲み水を少量与えること。  
 もし、吐き出した場合は与えないこと。  
 医療従事者の判断無しで吐き出させないようにすること。  
 もし嘔吐したら、頭を低くしておき、誤嚥を避けること。  
 意識不明の人の口には何も与えないこと。  
 被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、身体を温めて楽な姿勢で休息させる。  
 呼吸をし易い状態を維持すること。  
 意識不明の被災者を横向きにおいて回復体位にすること。  
 常に呼吸を止めないように確認すること。  
 襟、ネクタイ、ベルト等は緩めること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状  
詳細な徴候及び症状は、項目11－有害性情報に記載する

応急処置をする者の保護 全てのケースにおいて医師のアドバイスを受けること。  
医療スタッフにSDSを見せるか、被災者に物質情報が副えられていることを確認する。  
医師に対する特別な注意事項

---

項目5 火災時の措置  
職場のあんぜんサイトから引用

消火剤 小火災: 二酸化炭素、粉末消火剤、散水  
大火災: 散水、噴霧水、通常の泡消火剤

使ってはならない消火剤 棒状注水

火災時の措置に関する  
特有の危険有害性 可燃性液体  
火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。  
加熱により容器が爆発するおそれがある。

特有の消火方法 引火点が極めて低い: 消火の効果がないおそれがある場合は散水する。  
  
危険でなければ火災区域から容器を移動する。  
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。  
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火を行う者の特別な保護具及び予防措置  
消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

---

項目6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、  
保護具及び緊急時措置 訓練を受けてない、無関係な人は近づかないようにすること。  
項目8で記載する適切な保護具を着用すること。  
安全注意事項を遵守すること。  
漏出物の取扱後は手を洗い、保護具を洗うこと。  
掃除方法と適切な処理方法を練習すること。

環境に対する注意事項 水生環境への毒性は起きにくい。但し、多量の環境への放出は環境に有害の恐れがある  
非発火性の吸収材で、漏出物を取り除くこと。  
環境(下水、地下水、土)に放出しないこと。  
多量に漏出した場合、権威のある組織(消防庁等)に連絡をすること。

封じ込め及び浄化の方法及び機材 項目8で記載する適切な保護具を着用すること。  
直ぐに漏出物を回収し、安全に処理すること。  
少量の漏出: 不活性の乾燥した物質で漏出物を吸収し、適切な容器にしまい処理すること  
多量の漏出: 漏出を止められない場合、現場から離れること。  
処理設備に漏出物を入れること。  
土等の不活性物質で吸収すること。廃棄と分かるラベルの付いた容器に密閉すること。

二次災害の防止策 汚れた場所を清掃すること。  
環境規制を遵守すること。  
認定の廃棄物業者に依頼をすること。

他 データ無し

項目11の健康被害を確認すること。  
項目12の環境有害性を確認すること。

---

▲ 項目7 取扱い及び保管上の注意  
取扱い

技術的対策 (局所排気、全体換気) 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、  
保護具を着用する。  
「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なう。

安全取扱注意事項	飲食物の近くで取り扱わないこと。 漏出物が少なく済むように取り扱うこと。 使用しない際は容器を密閉しておくこと。 ミスの発生を避けること。 環境に放出しないこと。
接触回避	「10. 安定性及び反応性」を参照。
衛生対策	皮膚に触れた場合、直ぐに洗い流すこと。汚れた保護具を脱ぐこと。 再利用の前に汚れた保護具は洗濯すること。 取扱場所では、喫煙と飲食は避けること。 取扱終了若しくは、トイレ前には手を洗っておくこと。 保護具は使用後に洗濯清掃しておくこと。
保管	
安全な保管条件	反応物質から離して保管すること。 法令に従った保管をすること。 元の容器に保管すること。 容器を密閉して、涼しく乾燥した場所に密閉して保管すること。 保管時に容器を直立して、容器の損傷を防ぐこと。 漏出時に被害を減らす為、縦の状態に保管しておくこと。
近づけてはいけないもの	直射日光、熱
安全な保管保管包装材料	元の容器 316ステンレススチール

#### ▲ 項目8 暴露防止及び保護措置

##### 許容濃度等

日本産業衛生学会( 2005 年版) ACGIH( 2005 年)	未設定 TLV-TWA 10ppm
--------------------------------------	----------------------

##### 職場上の暴露限界

##### DNEL

##### 推定無影響レベル

職場	吸引	長期	全体効果	21.9 mg/m3
	吸引	短期	全体効果	43.8 mg/m3
一般	経皮	長期	全体効果	6.25 mg/kg/day
	経皮	短期	全体効果	12.5 mg/kg/day
	吸引	長期	全体効果	5.5 mg/m3
	吸引	短期	全体効果	11 mg/m3
	経皮	長期	全体効果	3.125 mg/kg/day
	経皮	短期	全体効果	6.25 mg/kg/day
	経口	長期	全体効果	3.125 mg/kg/day
	経口	短期	全体効果	6.25 mg/kg/day

##### PNEC

##### 予測無影響濃度

淡水	0.004 mg/l
海水	0.000 mg/l
断続的放出	0.04 mg/l
標準状態	8.55 mg/l
堆積物(淡水)	0.114 mg/kg
堆積物(海水)	0.0114 mg/kg
土壌	0.0205 mg/kg

##### 設備対策

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。  
作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。または換気を行うこと。  
取扱い後はよく手を洗うこと。

アース線の設置を行うこと。裸火、熱に近づけない事。水を含んだ物質を近づけないこと。  
引火点よりも温度が高い場合、耐火、耐爆発の設備を使用すること。  
粒子状の場合、耐火、耐爆発の設備を使用すること。  
呼吸器官を保護、もしくは局所、全体換気の管理で作業を行うこと。  
厳格な衛生管理の下で作業し、容器は密閉し、作業中の飲食と喫煙は避けること。

リスクアセスメントで目の接触が懸念される際は規格基準に適合した保護具を着用するこ  
眼と手の保護具を着用すること。

保護具

呼吸用保護具	認定規格の呼吸器の保護具。(JIS等)
手の保護具	化学品向けで、PVC製等の不浸透の保護具。認定規格の保護具。メーカー推奨の耐久時間を確認し、劣化したら保護具を破棄すること。塩化ビニル製が望ましい。
眼の保護具	目を覆う保護具。
皮膚及び身体の保護具	認定規格の保護具。

特別な注意事項

項目9 物理的及び化学的性質

物理的状态	液体
色	無色
臭い	特徴的
融点・凝固点	-51.5°C
沸点又は初留点及び沸騰範囲	213.5°C
可燃性	データ無し
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	データ無し
引火点	101.85°C
自然発火点	461°C
分解温度	データ無し
pH	データ無し
動粘性率	データ無し
溶解度	0.266% @ 20°C
n-オクタノール/水分配係数(Log値)	log Kow: 1.96
蒸気圧	0.25 hPa
密度及び/又は相対密度	1.054 @ 25°C
相対ガス密度	
粒子特性	データ無し
その他のデータ	
粘度	4.5 mPa s @ 20°C
分子量	150.18

● 項目10 安定性及び反応性

反応性	水に触れると、酸とアルコールに応じてゆっくり加水分解する。
化学的安定性	通常の気温では安定。推奨の保管状況では安定。
危険有害反応可能性	特別無し
避けるべき条件 (静電放電、衝撃、振動など)	長期間の保管を避けること。熱すると圧力で容器が爆発する。
混触危険物質	危険物質が発生する混触危険物質はない。
危険有害な分解生成物 その他	燃えた場合、一酸化炭素と二酸化炭素を発生させる。 一酸化炭素を含む有毒ガス

★ 項目11 有害情報

急性毒性

曝露経路	基準	方法	値	曝露時間	被検体	雌雄	値の決定
経口	LD50	OECD401	2,490mg/kg		ラット		
けい皮	LD50		>5000mg/kg		ラビット		
吸入	LC50	OECD403	<0.766mg/L	4時間	ラビット		

皮膚腐食性/皮膚刺激性

曝露経路	結果	方法	曝露時間	時点	被検体	値の決定
皮膚	僅かに紅斑、ただれ	OECD404	0.5ml 4hour		ラビット	紅斑/痂皮スコア: わずかに紅斑、ほとんど認識できず。72時間以内に可逆する。浮腫スコア: 浮腫はない。24時間以内に可逆

72時間以内に回復。刺激性はない。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性  
0.1mlを7日間。ラビット角膜スコア:0  
結膜スコア:0.11  
結膜浮腫スコア:0  
刺激無し  
OECD405

呼吸器感受性又は皮膚感受性  
エンドポイントはREACH附属書7、9、11にて免除

モルモットの最大化テスト(GPMT) 感受性なし、パッチテストで人に感受性無し。

生殖細胞変異原性

結果	方法	曝露時間	試験基板	雌雄	影響	値の決定
陰性	復帰突然変異試験	in vivo				
陰性	染色体異常	in vitro				

発がん性  
NOAEL 300mg/kg/day 経口 ラット  
無有害作用量  
IARC発がん性 IARCグループ3(人体に発がんを及ぼさない)

生殖毒性

曝露経路	基準	方法	値	曝露時間	被検体雌雄	効果	臓器	値の決定
------	----	----	---	------	-------	----	----	------

科学的に正当性無し

特定標的臓器毒性、単回曝露  
単回曝露で区分されない。

特定標的臓器毒性、反復曝露  
NOAEL 500mg/kg/day 経口 ラット 12日

誤嚥有害性  
その他

項目12 環境毒性情報

生態毒性

	基準	方法	値	期間	被検体	試験設計	淡水/塩水	値の決定
急性毒性 魚	LC50	OECD203	4mg/L	96h	赤メダカ			
急性毒性 無脊椎動物	EC50	OECD202	25mg/l	24h	大ミジンコ			
	EC50	OECD202	17mg/l	48h	大ミジンコ			
毒性 藻 水生動物	NOEC	OECD201	52mg/l	72h	藻類			
	EC50	OECD201	110mg/l	72h	藻類			
	LOEC	OECD201	113mg/l	72h	藻類			
急性毒性 微生物	EC50	OECD209	855mg/l	3h	活性泥			

残留性・分解性

光変換 エンドポイントはREACH附属書7、9、11にて免除  
生分解性 水 分解 100.9 :28日  
OECD301B  
この物質は生分解が容易

生態蓄積性

BCF:8 Calculation method. 本商品は蓄積しない。

土壌中の移動性

移動する  
吸着脱着: log koc 2.4@25°C OECD 121

表面張力 科学的に正当性無し

PBTとvPvBの評価 この物質はPBTやvPvBに該当しない。

オゾン層への有害性 データ無し  
他の有害影響

▲ 項目13 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい破棄、又はリサイクルに関する情報

廃棄物の発生を抑えるか避けること。可能であれば再利用かリサイクルを行うこと。  
本商品と容器は安全な方法で処理すること。  
廃棄物、処理用剤、残渣物、副生物は認定の廃棄物業者に依頼をして処理をすること。  
廃棄物を処理する際、商品の処理の取扱いには十分に注意を払い行うこと。  
空容器は完全に洗浄されていない場合、中に商品が残っていることを認識すること。

下水に排水しないこと。余分な商品の処理と、リサイクルできないものは、認定の廃棄物業者に委託処理を依頼すること。  
廃棄物、残渣物、空容器、廃棄する保護具は、ラベルを付けた廃棄専用の容器に集めておくこと。  
廃棄物容器は、再利用とリサイクルは集めておくこと。  
燃焼処理か埋立はリサイクルができないことはリサイクルができない場合にすること。

項目14 輸送上の注意

国際規制 IATA IMDG ADR/RIDといった国際輸送上の規制には該当しない。  
国連番号 非該当  
品名(国連輸送名) 非該当

国連分類 非該当  
(輸送における危険有害性クラス)

容器等級 非該当  
海洋汚染物質 有害液体物質 Y類物質 (施行令別表第1)  
(該当・非該当)

MARPOL73/78附属書II及び IBCコードによるばら積み輸送される液体物質 非該当  
(該当・非該当)

輸送又は輸送手段に関する特別な安全対策

国内規制がある場合の規制情報

その他 非該当  
応急措置指針番号

項目15 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

化管法	現状 該当 第2種指定化学物質 No.20(2023年3月末まで) 第2種指定化学物質 2-035(2023年4月1日以降該当) 通知・表示対象物質 該当
安衛法	非該当
毒劇法	非該当
火薬類取締法	非該当
高圧ガス保安法	非該当
消防法	消防法 第2条危険物第4類第3石油類非水溶性液体(2,000L)
化審法	既存化学物
船舶安全法	非該当
航空法	非該当
パーゼル法	第2条特定有害廃棄物等(0.1重量%以上を含む物)
外為法	キャッチオール規制

項目16 その他の情報

安全上重要であるが、これまでの項目名に直接関係しない情報

引用文献

オリジナルMSDS 2022年11月21日  
独立行政法人 製品評価技術基盤機構 NITE  
職場のあんぜんサイト  
2016年版 16716の化学商品

注意:

- ・危険有害性の評価はかならずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。
- ・この製品安全データシートは、当社の製品を適切にご使用いただくために必要で、注意しなければならない事項を簡潔にまとめたもので、通常取扱いを対象としたものです。